

特集
子どもたちの質問に
答えます

Q&A



鳥取市因幡万葉歴史館

Q.「万葉植物」とは何ですか？
A.現存する日本で一番古い歌集『万葉集』の歌によまれた植物のことです。約170種あり、花見をする歌や、好きな人を花にとえた歌などがあります。当館の庭園には、梅や桃をはじめ、オキナグサなど、珍しい「万葉植物」もあります。



庭園のオキナグサ (万葉名：ねつこ草)

鳥取城跡・仁風閣展示館

Q.工事で5年間休みと聞いたのですが、どんな工事？ピカピカの新しい仁風閣になるのですか？
A.仁風閣は120年近く前に作られた古い建物で、あちらこちらが壊れたり傷んだりしています。今回の工事は、建物の古い材料を順番にはずして確認し、使えるところはもう一度使って直します。文化財修理工事は新しい建物を作るのではなく、古い部材を大切に作り直すのです。壁の白いペンキは塗り直すので、きっときれいな仁風閣に生まれ変わりますよ！



工事中は展示館へ

鳥取市埋蔵文化財センター

Q.今と昔の灯りのちがいは？
A.今から約400年前の江戸時代の頃、電気というものはなくろうそくや行灯を灯りにしていました。当時の油はとても高価で貴重なものでしたので、人々は植物や魚から取った油を使って火をともし灯りにしていました。そんな灯火具の一つ、燈明皿の灯りはわずかに手元を照らすだけのものでした。



写真提供 (鳥取城下町遺跡出土；燈明皿の参考使用例)

城下町とつとり交流館 高砂屋

Q.高砂屋は何を販売しているのですか？
A.鳥取県の民芸品を販売しています。因州和紙、麒麟獅子ミニチュアの置物、ゆみはま 緋、しゃんしゃん傘や扇子、陶器など、お土産やプレゼント、記念品として、たくさんの方にご利用いただいています。



民芸品売り場

鳥取市あおや郷土館

Q.「鳴き砂」と「鳴り砂」ってちがうの？
A.日本の海岸の中には、条件が良い日に歩くと「キュッ、キュッ、キュッ」と音が聞こえる場所が何ヶ所あります。このような海岸の砂を「鳴き砂」または「鳴り砂」と呼びますが、これは地域での呼び方の違いです。
 鳥取市青谷町の青谷海岸や井手ヶ浜では「鳴り砂」と呼んでいます。音が「クッ、クッ、クッ」と鳴って、笑っているように聞こえるんですよ！ぜひ、青谷海岸や井手ヶ浜を歩いて、鳴り砂の音を聞いてみてください！



青谷海岸

鳥取市あおや和紙工房

Q.青谷は因州和紙の産地ですが、地域で取り組んでいる行事はありますか？
A.産地の若い世代で構成する和紙青年部が地元小学校といっしょに卒業証書を製作し、48年以上前から伝統の継承活動を行っています。
 また、あおや和紙工房でも市内小学校の申し込みに応え、毎年6年生のみなさんと卒業証書づくりを行っています。



自分だけの卒業証書づくり

鳥取市歴史博物館「やまびこ館」

Q.「まなびのひろば」では、どんなことが体験ができますか？
A.土器などを立体のパズルにしたものを組み立てて、モノのカタチをすることができます。これまでは縄文土器や弥生土器、円筒埴輪の3つでしたが、このたび4つ目が完成しました！「東桂見遺跡出土移動式竈」の立体パズルです。11月1日から遊べるようになっています。ぜひ挑戦してみてください。解説パネルも見てみてね！



15分での完成を目指そう！